



# 父母と学ぶ会だより

NO. 33 研修報告号～H29年9月発行



## 施設内研修報告

平成29年8月28日（月）

### アルツハイマー型認知症について

担当 栗田（百） 和久井

高齢期にかかりやすい病気として認知症があります。今回はその中でも認知症の65%を占めると言われる「アルツハイマー型認知症」について調べて発表を行いました。

まず「アルツハイマー型認知症」は進行性の病気です。進み方には個人差がありますが、Ⅰ期からⅢ期までゆっくり進行していきます。

それぞれの特徴は、

#### Ⅰ期（軽度）3～5年くらい

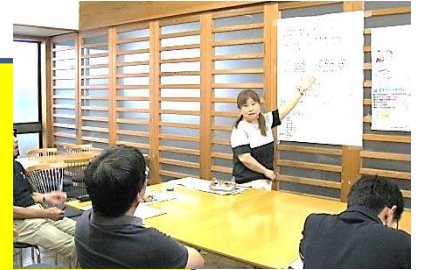
- 記憶障害が現れ始める
- 身の回りのことはある程度自立できる

#### Ⅱ期（中度）5～8年くらい

- 記憶障害が激しくなる
- 料理などの手順が分からなくなり、日常生活に失敗が目立つ
- 徘徊や妄想、幻覚など随伴症状が多くなる

#### Ⅲ期（高度）5～8年くらい

- 日常生活の全般で、介助が不可欠となる
- 寝たきりになる



です。「アルツハイマー型認知症」は寿命にほとんど影響を与えることはないそうです。

Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期に現れる特徴的な行動やそれに対する具体的な対応を2つのグループに分かれて話し合いました。

認知症の介護では本人の世界を理解することと、介護者自身が1人で抱え込むのではなく、上手に割り切って自分自身も守ることが印象的でした。

（文責 栗田 百江）



### 参考図書

アルツハイマー病のすべてがわかる本

新井 平伊 著





# ティータイム

平成29年6月19日(月)

## 人の意見を引き出す司会技術

研修担当 栗田(百)、林

6月19日にゆいまある施設内研修として、ティータイム①「人の意見を引き出す司会技術」を行いました。研修内容としては、

①人間コピー

②サービス担当者会議で行う司会について

の二つを発表しました。

①では、3~4人グループになり、離れた所にある絵を見てきて、画用紙に同じ絵を描くというものでした。実際に絵を見た人は描かず、口頭で他のメンバーに、その絵に何が描かれているかを伝えます。そして、他のメンバーがその聞いた内容を想像し、模写するものでした。2つのグループに分かれて行いましたが、実際に見た絵を口頭だけで伝えることは非常に難しく、いかに口頭だけの説明が相手に伝わりにくいかが分かりました。

②では、サービス担当者会議を行う目的や会議を行う上での気をつけることの発表を行いました。実際に人の意見を引き出すという事は難しく、関わる人との信頼関係を形成することや、会議をスムーズに行うことも大切ですが、事前準備をしっかりと行っていくことが大事だと分かりました。

(文責 林 祐太)



# 研修報告

## 知的発達障害者と医療

平成29年7月10日(月)

講師 山倉 慎二 氏

今回、知的発達障害者と医療について山倉慎二先生から知的発達障害などの必要な医療、感染症等について学びました。

感染とは、一定の病原体が人の組織や表面に定着して増殖することを言う。感染の結果、発熱などの病的な症状に達した場合を発病といい、その病気が感染症になります。

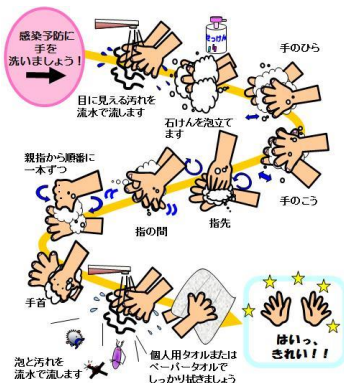
感染症対策として、標準予防策(スタンダードプリコーション)の基本的考え方が大切になってきます。

1つ目として、手指衛生が感染予防に際し、最も重要になってきます。①石鹸で15秒以上かけて手指をこすり合わせる。②流水で完全にすすぎ流し、ペーパータオルで完全に乾燥させる。③手が再汚染されないように、ペーパータオルで蛇口をひねることが基本的洗い方になっています。その後、手に見える汚れや蛋白性物質による汚染がある場合は石鹸と流水にて手を洗ってから手指消毒を行うことも必要になります。また、うがいも大切なことです。

2つ目として、環境対策が必要になります。必要なこととして、環境表面を日常的に清掃する。また感染症が他の人に接触しないように避けること、また感染者が使用した物は速やかに滅菌処理を行うことも必要になります。

手洗い、うがい、環境対策を行うことによって予防につながっていくのだと感じました。

(文責 久保田 湧麻)



手洗い方法の参考例